

「文化財にできるような古い本堂らしいが、どんな修復をしているのか詳しく知りたい」というお声を頂戴しました。またお声だけでなく準備金まで頂き、このたびめでたく「修復に関する展示コーナー」が通称表庫裏(会館)玄関にできました。



展示コーナーを覗き込む湯村(高)法務員

最後に、予定より少々工事が遅れています。請負業者である三栄建設さんに対する事実無根の悪口が耳に入りました。遅れについては、解体調査後から二期工事本契約までの課程(設計の修正、再見積とその承認、方針の変更、総代会の開催等)によるものであり、三栄建設さんの責任ではないことを明記しておきたいと思えます。工事はずっと進み、お盆明けに上棟式を予定しています。

# 新聞切り

戦前より、西教寺には「網結き講」というお講がありました。お寺に集まって網を結び、できた網は武田製網に納めていました。残念なことに武田製

網の需要が減少し、講は中止を余儀なくされました。その後は何もしていなかったのですが、敗戦後、「年寄りでも何かお寺の役に立ちたい」ということで、網結き講の後にはじまったのが「新聞切り」です。和上さん(前住職・釋俊雄)が「仲良くできるのならいいでしょう」と言って下さったのではじまりました。新聞紙を適当な大きさに切って鮮魚店で魚を包む包装紙としてお店に買ってもらうのです。みなで新聞を切りながら和氣藹々と雑談できるのが魅力です。以前は、長ノ木本坊だけでなく蔵本通支坊でも行われていました。現在は不定期ですが長ノ木本坊だけで行われています。春名圭子(新聞切り世話人)さんによると、収入はわずかでしたが、コツコツとためて長ノ木本坊七高僧の御影を修復したり、長ノ木本坊の虎机を購入したり、仏具の購入等の足しにしました。虎机は四十万円もしたので、半分和上さんに借金して買ったんですよとお話してくださいました。



七高僧のお軸と虎机



網結き講の様子か。この頃の本堂縁側や階段には手摺りがなく、墓地側に階段がある。



郷町地区を長年お世話くださった樋口静枝さんが、体調を崩されました。新たに熊本良子さんがお世話をしてくださることになりました。樋口さんお大事にしてくださいね。熊本さん、どうぞよろしくお願います。



熊本良子さん

紙面の都合により、花まつりの記事は次号に掲載いたします。(編集者)